

## ユーザー視点の港湾再生による地域活性化のあり方に関する委員会

### 1 目的

- ・我が国の港湾は、シンガポール港、釜山港等の他の主用港湾が取扱量を増やす中、相対的な地位の低下が続いており、今後、基幹航路ネットワークから外れることにより、我が国の製造業の競争力の低下にもつながり、関連産業が立地する地域の経済にも大きな影響を与えると指摘されている。
- ・こうした問題意識のもと、港湾経営の民営化等効率性の改善等に向け様々な施策が展開されているが、我が国の主要港湾の利用拡大の最大のカギは、港湾や航路の選択を実際に行っている海運会社及び荷主といった「ユーザー」の意向である。
- ・こうしたユーザーが、選択するに足ると判断する環境が我が国の主要港湾に用意されなければ、我が国の主要港湾の相対的な地位の低下を食い止めることは不可能と考えられる。
- ・このため、港湾経営の民営化等の取組を進めている京浜三港等をモデルとし、選択に足る港湾となるための必要条件について、国際海運物流分野のリーディング企業が多数存する我が国の特性を活かし、ユーザーから直接意見を聴取し、これを踏まえて、構造改革特区の活用による機動的な規制緩和等今後の政府の支援のあり方についての検討を進める。

### 2 委員会の構成

#### (1) 概要

- ・事務局は内閣官房地域活性化統合事務局に置く

#### (2) 委員

- ・有識者により構成  
座長：八田 達夫氏（大阪大学名誉教授）  
委員：岡本 亮介氏（政策研究大学院大学准教授）  
城所 幸弘氏（政策研究大学院大学教授）  
竹林 幹雄氏（神戸大学大学院教授）（五十音順）  
※国土交通省等関係省庁及び京浜港の関係者（地方公共団体、埠頭公社）は、オブザーバーとして参加

### 3 委員会の進め方

#### (第1回) 平成24年2月23日開催

- ・今後の進め方の確認
- ・京浜港における競争力強化の取組み（京浜港関係者プレゼン）

※以下のポイントに関する見解を明確化

- ① 京浜港の地位低下の理由は何か？
- ② 京浜港をハブ化する必要性？
- ③ 京浜港をハブ化することは可能か？
- ④ ハブ化を進めるための必要条件
- ⑤ そのために望まれる政府支援

**(第2回) 平成24年3月27日開催予定**

- ・ユーザーの立場からのプレゼン1 (日本郵船、商船三井、川崎汽船)
- ※ユーザーの立場からみた京浜港の位置付け及び京浜港に関する要望 (京浜港関係者等の見解も事前に提示)
- ※プレゼンは、各海運会社の定期航路部門の責任者の出席を依頼

**(第3回) 4月開催予定 (P)**

- ・ユーザーの立場からのプレゼン2 (外資海運会社等)
- ※ユーザーの立場からみた京浜港の位置付け及び京浜港に関する要望 (京浜港関係者等の見解も事前に提示)
- ※外資海運会社プレゼンは、各海運会社の定期航路部門の責任者の出席を依頼

**(第4回) 4月開催予定 (P)**

- ・ユーザーの立場からのプレゼンの内容を踏まえた論点整理
- ・最終とりまとめ

※ユーザーから問題提起のあった点について、政府関係者 (必要に応じて、他省庁関係者の出席も依頼) 及び京浜港関係者が見解を提示  
※これらを踏まえ、委員の間で今後の政府支援のあり方等を議論

**4 スケジュール**

平成24年2月中旬～4月 (P)